

# 大ナイゴ沢復旧対策に関する検討委員会

## 【第1回検討委員会 概要】

日時: 令和4年5月30日(月)13:30~15:30

場所: 新潟県村上地域振興局 2階会議室

### 議事進行内容

- (1) 開会
- (2) 挨拶  
関東森林管理局 計画保全部 治山課長  
関東森林管理局 下越森林管理署村上支署長
- (3) 検討委員会趣旨説明
- (4) 出席者紹介
- (5) 座長選任
- (6) 座長挨拶
- (7) 議事
  1. 対象地の概況
  2. 対象地の地形・地質
  3. 大規模崩壊地の荒廃状況と濁水発生機構
  4. 大ナイゴ沢の変遷
  5. 令和元年度に実施した下流影響度評価(氾濫シミュレーション結果)
  6. 復旧対策の方針
  7. 討議及び各委員からの意見
- (8) 閉会

検討会出席者 別紙1\_出席者名簿のとおり



検討委員会の状況

## 【委員からの意見】

- 「地すべり」と「崩壊」の使い分けについて、実態に沿った使い分けが必要である。
- 降雨と崩壊の関係については、今後の動態予測においても重要であるので、拡大崩壊が発生した2013年と2021年以外のデータ整理・検討も行うべきである。
- 崩壊地への航空実播については、土砂移動状況や雪崩等地域特性に応じて、手法を検討する必要がある。当該地区と自然条件が類似する多雪地域の手取川(石川県)において行われている航空実播の検討事例を参考にしようか。
- 復旧対策工については実現性が高い工種と考えられるが、崩壊地の対策検討の前提として地すべりの活動性を確認する必要がある。
- 溪間工によって、溪床の不安定土砂の流出を抑制し、間接的に濁水濃度の低減が期待できる。しかし、地すべり本体の活動が顕著な場合は、復旧対策工の再検討が必要である。
- 令和4年度応急対策の大型土のうの対策について。  
大型土のうは土石流のような流れを受け止められる構造ではないので、堆積土砂の浸食防止等なら良いが、ダムのような使い方の場合にはどのような流れを受けるのか注意が必要である。
- 今後、復旧対策工の配置計画においては、施設の効果を何らかの方法を用いて検証の上、決定すべきである。